

<p>第40号 平成24年 3月 HPに 創刊号から 連載中</p>	<p>もう一つの道</p> <p>情報は、うのみにせず、注意深く徐々に試して下さい。</p>	<p>山田整骨院 熊本市出水4-25-1 096-364-7611 http://yamadasu.com/ E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp</p>
--	---	--

子供、青少年の病気（3）

ノアの方舟（その3） 檜尾太郎
昭和25年 4月号 月刊西医学

第五例

福井県小浜町の21才の青年。発病以来4ヶ月、入院してから三ヶ月。頑固な厳しい頭痛、発熱、発作的に胸から咽喉に向って突上がる感じ、心悸亢進等が主訴である。咳も痰も出ないのに、胸部レントゲン写真を撮って、「これは撒布性粟粒結核で、それが頭へ上って結核性脳膜炎になったのである」と、近所の医者も病院の医者も言ったそうである。結核性脳膜炎が一進一退で何ヶ月も生命を保っているか、そんなこと言う医者の医学的常識を疑いたくなる。若い人で発熱、血沈促進、それ肺浸潤とやるのが習慣になっているのだろうか。

忘れもせぬ11月3日湯川博士ノーベル賞受賞の記念すべき文化の日の夕方、病室に入った時は、ワラ布団の上に厚い敷布団を二枚敷いて寝ている蒼白い蒲柳質の青年を見出した。顔をしがめて首を左右に振り動かしながら、頭痛を訴え、物が二重にも三重にも見えると言う。右の眼瞼下垂、右手の本脳線がうすく、左の腸の宿便というが直ぐ分る。私は愛児の看護に精魂こめている母親を振返って尋ねた。「今迄どうしていたのですか」「結核性脳膜炎だから絶対安静にするよう言われ、ストレプトマイシンを四十何本も打ちましたが、頭痛は幾分かましになるようです。それでもバイキンがストレプトマイシンに抵抗力を持って来て効かなくなるということを聞いていますので、それが心配なのです。」「便通は」「入院当時は十日位便通がないこともありましたが、浣腸しないと絶対に出ないので、二、三日毎にイチヂク浣腸をしています。」「腸の自家中毒で脳膜炎症状を起こすのです。腸と脳との関係の実験は慶応大の病理学教室で川上博士の下でやったこともあります。貴女でも下痢止の薬を飲んで大便を出さぬようすれば、お子さんと同じ状態になりますよ。お腹は味噌湿布をし、ミルマグを飲ませ、水をもっと上げないと、これこの通り、皮膚に弾力性がないでしょう。水分の不足ですよ。」「水なんか一寸も飲まなかったことがあります。それにお小水が濁るのです」「それはストレプトマイシンの副作用かも知れませんが、とにかく水をもっと上げないと小便はき

れいになりませんよ。30分毎に30gの割で飲ませて下さい。それから絶対安静で寝ていては、手足が痩せて動かなくなります。右の手足がしびれるようですね。これは毛管をやって手足に力をつけるようにしなければいけません。」

そこで両脚を持上げて毛管をやろうとするが、膝の裏がつって上らない。脳膜刺激症状の診断法にケルニヒ氏微候というのがあり、坐骨神経痛の診断法としてラセーグ氏微候というのが知られているが、痛いのを練習して伸ばせば治るとは、医書にも書いていない。これも症状即療法の一つである。

さてミルマグを30cc程飲ませて、翌日退院して自宅に帰ったのを診ると、自然便が出たようで、右眼瞼下垂は治り、頭痛も軽くなって非常に気分がよい。その日は断食をして、次の日から生野菜の播餌とお粥を少量与えることにし、取敢ず畳の上に毛布を敷いて休み、木枕をあてがい、金魚、毛管、味噌湿布、ミルマグ飲用等で、熱も出なくなり、頭痛もしなくなった。

解 説

昭和11年3月発行、慶応大医学部川上漸教授講演録「老衰の原因」で脳と腸の関係について、実験と研究成果が発表されています。

研究室の山崎氏は川上教授の教室で解剖した全ての脳髓の標本をこしらえて、一々綿密に顕微鏡で調べて次のデーターを得ました。脳髓のほとんどが内出血を起こしており、97.7%に上った。この中で医師が内出血の診断を付けたものは4.7%に過ぎず、医師も本人も分からなかったものが、93%もあった。つまりほとんどの人に内出血が起こっている。しかし、だからと云って、それが生理的、正常である筈がない。何らかの原因があるはずだと問題提起をしています。

研究室の柴田氏は動物の腹を開けて海草を入れたゴム袋を腸の所に結びつけました。ゴム袋に小穴を開けて腹を元どおり縫い直しました。動物は一応健康な身体になりました。しかし、少しずつ腹膜の水がゴム袋の海草にしみこんで海草が膨張しました。すると腸管は締めつけられていきました。ついに海草がいっぱい膨らんでしまうと腸はあるかないかの非常に小さいものになりました。ここで腸閉塞が完全に起こりました。このようにして行なわれた腸閉塞の動物を解剖して脳髓を調べると、必ず脳髓に出血が起こっていました。腸の中の停滞している内容物(大便)が血液の中に吸収されて脳髓に害を及ぼして出血するであろうと考えて、その内容物を殺菌したものを、健全な動物に注射してみると、動物は死にました。死んだ動物の脳髓を調べるとやはり出血が起こっていました。以下略。

つまり腸閉塞などによって便が滞留すると便の毒が腸壁を通過して脳に至り脳内出血を起こして頭痛、脳卒中、半身不随を起こすということが実験で証明されたわけです。